

公益財団法人 日本社会福祉弘済会 助成

楽しい学びづくり

Make Learning Fun

実施団体名：Montfort Youth Training Centre /

モンフォート青年研修センター

担当修了生：Ms. Beverley Marsha Jokolin Jominit / (ビバリー・32期)



実施団体概要

- ・貧困や両親がいないなどさまざまな状況の家庭の若者の生活支援を行う。若者が生活に十分な雇用と、善良な市民としての意識を持てるように、一般教育や人格形成の機会、工業技術研修を提供している。
- ・2年間のプログラムで、自動車整備や家具づくり、溶接、エアコンの修理に関する研修や、油ヤシ農場の管理プログラムを提供している。その他に、研修センターの若者（以下、訓練生）は英語でのコミュニケーションや計算、コンピューターに関する基本的な知識についても学ぶ。

活動地

ボルネオ（カリマンタン）島は東南アジアの島であり、マレーシア、インドネシア、ブルネイの3カ国が領有している。ボルネオ島のマレーシア領は、北のサバ州と南のサラワク州に分かれている。面積は約74,000 km²、人口は約350万人である（2014年）。



活動の目的、ねらい

- ・学習に困難をかかえ、特別な支援を必要とする訓練生たちの脳の働きを刺激し、学習能力を高める。
- ・訓練生たちの発音を改善し、英語のリーディングを流暢にする。
- ・読書や読み聞かせに興味を持ってもらう。

事業の概要

(1) 支援対象

76名の訓練生

(2) 事業期間

2020年7月～12月、2021年2月26日～2021年5月7日(未完了)

(事務局付記)

マレーシアでは、新型コロナウイルスの影響で、2020年3月中旬から全国的な移動制限令が発令され、プロジェクトの開始時期を延期した(助成金の送金は7月)。しかし、11月に再び移動制限令が発令され、公共交通機関が停止したため、寄宿中の訓練生を帰省・帰宅させることができなかった。厚生安全省に相談し、感染者数が減るまで訓練生を預かるようアドバイスを受けた。寮の運営は継続したが、技能実習は休止した。ビバリー氏も移動制限令発令以降、訓練生と一緒に寮に滞在し、授業を続けた。2021年2月より事業を再開することができたが、終了(訓練課程の終期)は2021年後半にずれ込む見込みである。本事業報告は途中段階の状況をもとにしたもの。

(3) 事業計画

- ・学習に困難を抱える生徒たちに脳の活性化プログラムやオーディオを利用したプログラムを実施することを通じて、学習能力、なかでも読解力、発語力を高める。
- ・当初の申請では、弁論大会、歌やパフォーマンス・コンテストなどに参加し、自分の能力を発揮することで自尊心を高める機会を設ける予定であった。しかし、新型コロナウイルスの影響で、安全基準に則った読解力向上プログラムをマンツーマンで実施した。

実施内容と成果

(実施内容)

(1) 脳活性化プログラムと運動

- ・認可を受けたトレーナーから脳の活性化プログラム(ブレイン・ジム)のワークショップを受けるべく、4名の教師と2名の運営スタッフを選抜し、3月11日にZoomを通してワークショップを行った。
- ・その後、各教師のクラスにおいて、実際のレッスンや1対1のリーディング・プログラムの前に運動が実施された。
- ・訓練生たちのためにボードゲームが導入された。教師たちは訓練生たちに遊び方とゲームのルールを説明した。

(2) 1対1リーディング・プログラム

- ・本プログラムは2020年10月から12月まで続けられた。
- ・6名の教師がおり、訓練生たちにそれぞれ1名の教師を割り当てた。
- ・リーディング・プログラムは毎週金曜日の午前9時～10時半まで行った。
- ・訓練生は15分をリーディングに費やし、その後読解力およびスペリング向上のために質疑応答を行った。

実施内容と成果

(成果)

(1) 脳の活性化プログラムと運動

- ・レッスンの前に脳の活性化プログラムを行うことによって、訓練生たちは授業に意識を向け、集中することができた。
- ・運動のやり方を学んでから、訓練生たちは集中力が低下したときに自分で身体を動かすようになった。
- ・脳の活性化プログラムの訓練を受けた教師たちは、訓練生に合った学習を増やしたり、ストレスの軽減や気持ちを落ち着かせる効果的な体操を勧めることができるようになった。
- ・ボードゲームをすることで、英語学習能力およびコミュニケーション技能を遊びながら高めることができた。

(2) 1対1リーディング・プログラム

- ・この活動の前に脳の活性化プログラムを組み込むことで、訓練生たちが新たに学ぶことばの定着率が向上した。
- ・訓練生は最小限の指導で英語を読めるようになった。
- ・訓練生は英語で話すことに自信がついた。
- ・読書のスピードが速くなり、理解力が高まった。それに伴い、訓練生たちは読書の楽しさを覚えた。



脳の活性化プログラムのワークショップ



脳の活性化プログラムのポスター



脳の活性化プログラム実施の様子



英語のコミュニケーションおよび学習に焦点を当てたボードゲーム



今後の展望

- ・ 訓練生たちが休暇を終えてキャンパスに戻ってくる予定日が 2021 年 6 月 7 日であり、新型コロナウイルスの規制が解除されていることを願う。
- ・ 脳の活性化プログラムと運動、および 1 対 1 リーディング・プログラムは継続する。
- ・ 現在の第 21 期、76 人の訓練生の活動として、未終了であるドラムサークルの活動を行う。
- ・ 2021 年 6 月 19 日には新しい生徒 80 人を迎え入れることを検討している。新入生（第 22 期となる）からは読解活動を始めたい。

実施 スケジュール

実施日	項目
2020年10月～12月	1対1リーディング・プログラムを実施
2021年2月19日	クリスマスおよび旧正月の休暇を終え、訓練生たちが学校に戻る。
2021年2月26日	1対1リーディング・プログラムを継続
2021年3月11日	脳の活性化プログラムのZoomワークショップを開催
2021年3月15日	脳の活性化プログラムをクラス/レッスンで実施
2021年3月22日	訓練生向けにボードゲームを導入。ボードゲームを用いたセッションは、スケジュールの合間を利用して臨時に行われた。
2021年5月7日	現訓練生の終了日
2021年5月12日	休暇のため訓練生を送り出す（マレーシア政府による学習施設に対する新型コロナウイルスの規制のため）

(事務局付記)

未終了のドラムサークル活動は6月以降に実施予定。

収支報告

事業実施状況が中間段階のため収支報告は割愛。

マレーシア 基本情報



面積 ^{※1}	33,1万km ² (2019年)
人口 ^{※1}	3,195万人 (2019年)
人口密度 ^{※1}	99人/km ² (2019年)
主要民族 ^{※2}	マレー系 (約69%)、中国系 (約23%)、インド系 (約7%) (注: マレー系には中国系及びインド系を除く他民族を含む)
主要言語 ^{※2}	マレー語 (国語)、中国語、タミール語、英語
主要宗教 ^{※2}	イスラム教 (連邦の宗教) (61%)、仏教 (20%)、儒教・道教 (1.0%)、 ヒンドゥー教 (6.0%)、キリスト教 (9.0%)、その他
政治体制 ^{※2}	立憲君主制 (議会制民主主義)
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	11,110米ドル (2019年)
通貨 ^{※1} (1米ドル= 109.010円換算)	1米ドル= 4.142リンギット (2019年平均) 100円≒ 3.800リンギット
平均寿命 ^{※1}	男73歳、女78歳 (2016年)
65歳以上人口割合 ^{※3}	6.921% (2019年)
合計特殊出生率 ^{※4}	2.001 (2018年)

※1 統計局 世界の統計 2021 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/index.html>

※3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) - Malaysia
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=MY>

※4 World Bank Fertility rate, total (births per woman) - Malaysia
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=MY>